

野菜の展望

爽やかな空気に入れ替わり、朝晩の冷え込みも強まってきて、秋の訪れを感じられるようになりました。今月の野菜は、産地によっては今年度の天候の影響を大きく受け、かなり不安定な入荷が予想される品目もありますが、東北・北海道産については、猛暑・豪雨の影響から作柄不良が予想されず。県内に目を向けるといよいよ石川産の秋冬野菜の入荷が始まります。石川産秋冬野菜は、播種時期はやや遅れ気味ではあるが、概ね順調な入荷が見込まれており、季節訴求・産地訴求に充分対応出来ると思われれます。

葉茎菜類の白菜は長野産主体の入荷ですが概ね安定した入荷となっています。下旬に長野産が減少すると、茨城産も加わる予定です。キャベツは群馬・長野産の入荷で、下旬より愛知・茨城産も加わる予定です。葱は石川・北海道産中心で、バラ物については関東・長野産地からの入荷となります。小ねぎについては静岡・愛知・福岡産の入荷です。ほうれん草は飛騨高冷地主体に石川・静岡・北関東産の入荷です。レタスについては上旬が長野産中心となり、中旬からは茨城産へと移行します。ブロッコリーは石川・北海道産の入荷となります。石川産については下旬より安定した入荷が見込まれます。

根菜類の大根は石川産中心となります。北海道・青森・岐阜産は平年通り、前半での終了が見込まれます。人参は北海道産主力で平年並の入荷となる見込みです。蓮根は石川産メインに茨城・愛知産で、石川産は豊作傾向のため、数量は増加となります。甘藷は石川産主体で、その他千葉・茨城からの入荷も予定されています。里芋は宮崎・福井・新潟産の入荷となり、福井産については中旬からの入荷予定です。かぶは青森産主力の入荷となり、中旬頃からは石川産個人物の入荷が見込まれます。

菌茸類の松茸は中国・米国等の輸入物中心に、国内（石川・岐阜・長野）産が加わります。椎茸は石川産菌床物を中心に、長野・新潟・富山・兵庫・徳島産の入荷となります。なめこは石川・長野産主体に石川産原木物の入荷となります。えのきは長野産中心に潤沢な入荷が見込まれます。しめじ類は長野産中心で、日々安定した入荷予定です。またこの時期は天然物キノコ類がピークを迎えます。芝茸を中心として多品種の入荷となりますが、8月・9月の干ばつの影響から今後の天候で大きく変わります。

果菜類の胡瓜は石川・群馬・福島産に、中旬からは高知産の入荷が始まります。福島産については中旬には概ね終了となります。茄子については、中茄子が石川・高知・山形、長茄子は熊本・福岡・茨城産の入荷です。高知・熊本の主力産地に於いては、生育期の豪雨や酷暑の影響が残っているため、序盤は不安定な入荷となると思われれます。トマトは石川・愛知産中心の入荷となりますが、猛暑の影響から不安定な入荷が見込まれます。南瓜は北海道産が中心となりますが、不作傾向から全体量は前年にひき続き平年より少なくなる見込みです。ピーマンは夏秋の長野産が中旬頃までの入荷で徐々に高知産ハウス物に切り替わり、下旬から鹿児島産が加わる見込みです。

土物類の馬鈴薯は北海道産主体ですが、L主体に順調な出荷が見込まれます。但し、小玉傾向からL>LM>2Lとなります。玉葱は北海道産の入荷です。生育期の高温により小玉傾向で、全体量も少ないと思われれます。長いもは、青森産は不作で少なく、北海道産はヒネ物の最終版になります。ごぼうは青森産主体に安定した入荷となり、L・Mを中心とした出荷が見込まれます。

秋本番を迎え、いよいよ「食欲の秋・味覚の秋」がやってきます。秋冬野菜も本番に入り、煮物・鍋物野菜の需要も上向きになると思われれます。多彩な企画立案による拡販を宜しくお願いいたします。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

いよいよ秋本番を迎えて、秋冬果実の本格シーズンに入ります。

みかんは福岡・長崎・和歌山産主力に極早生の入荷が始まります。出荷量は昨年並を見込んでいます。果実肥大は小玉傾向で、酸切れは良いと思われます。

柿は和歌山産の刀根、平核無、岐阜産の西村、松本、富有、筆柿の入荷となります。

りんごは中生種で長野産（シナノスイート、秋映）青森産（早生ふじ、ジョナゴールド、とき等）が出揃ってきますが、高温の影響により着色遅れが予想される。

梨は県内産のあきづきは上旬までの入荷予定となり、新高の販売となります。県外産新高梨は中旬からの入荷予定です。

ぶどう類は長野産の巨峰や長野・岡山・山梨産のシャインマスカットを中心とした大粒系の入荷で、数量は前年並みと予想されます。

瓜類については、静岡産メロンは生産者と高温の影響で、前年よりも少ない出荷となります。石川アールズについては、5玉中心で、上旬で終了予定となっています。北海道のらいでん（赤肉）メロンは上旬で終了予定となる見込みです。

いちじくは石川産を主力に愛知産の出回りです。栗は各産地、不作により前進出荷も相重なり、入荷減の見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン産・南米産とも順調な入荷です。価格は保合で推移します。オレンジはオーストラリア産ネーブル種が中心でバレンシア種は10月下旬を予定しています。グレープフルーツはオーストラリア産のルビー種の販売、レモンはチリ産の入荷となります。パイナップルは大玉・小玉ともに入荷が不安定になっています。ニュージーランド産のキウイフルーツは順調な入荷で、ゴールド・グリーンの販売となります。その他、秋商材として乾燥果実の干芋、甘栗の販売が本格化しますし、韓国産のむき栗、カリフォルニア産のザクロ、ハネジューメロン、シードレスぶどう等も入荷いたします。

以上、今月も一層の拡販をお願いいたします。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》